

小谷村・伊折集落の風景と人の温かさに魅力を感じながら 「ふたつき農園」を営んでいる新規就農者の福永朋子さん

「朋子さん」の「朋」の字が月二つなことから、仲間とか友達という意味を持つ「朋」の字が好きなところから「ふたつき農園」と名付けたという、小谷村に移住して3年目の朋子さん。同じ小谷村に東京から移住された方と、この冬ご結婚を控えているという、幸せオーラいっぱいの福永朋子さんを取材しました。



◇朋子さんは小谷村に移住して新規就農されたということなのですが、なぜ小谷村だったのですか？

☆初めて小谷に来たのは大学生の時です。この集落に東京農大の教授が古民家を借りて研究拠点にしてらっしゃるんですけど、私もそこで研究がしたくて、それで学生の時にここに来たのがきっかけです。そこで農業をしているおじいちゃん、おばあちゃん達からお話を聞いたりしているうちに、この農村の雰囲気とか風景とかがすごく素敵だなあと思って。あとは夏にここで住んだ時に、ここで採れた野菜とかを毎日食べてたら、すっごい体が元気になるのが分かって「やっぱり体を作るのは食べ物だなあ」ってすごく思っただけ。最初から農業をやりたいと思ってたんですよ。そっちが最初で、小谷に来る気はなかったんですけど、学校を卒業して色んな長野県の農業法人さんとか見たんですけど、「やっぱり私は小谷で農業やりたいのかもしれない」って思って、そういう農村文化に根ざした暮らしとか、そういうのがすごく好きで。でも農業の世界ってやっぱり厳しくて、農業で暮らしていくのは並大抵の事じゃないなあって、働いて思ったんですけど。それでも、なんか田舎暮らしみたいなのをず〜っとやってみたいなっていうのがあったんですよ。夢だったんだ。そうです、そうです。で、そういうことを色々考えているときに、伊折農業生産組合の藤原真弓さんから「小谷に来て農業やらない？」って声をかけていただいて、それで小谷に行けるかもしれないって思って。それは大学生の時？それはねえ、働いて2年目位の時。その時は佐久にいたんですよ。そうなんだあ。そこで、有機農業を勉強させてもらって、その時に真弓さんに声をかけてもらって。でも、いざこっちに来るってなると自分でやらなきゃいけないし、家とか畑とか探すところから始めなきゃいけないから、ちょっとハードル高いなあとは思っていたんですけど、でもずっとやりたいと思ってたことだったから、今このチャンスを逃したらもうないなと思って、それでまあ思い切って移り住んできたって感じです。農業の経験っていうのは？経験は、大学出てから3年間です。1年目は川上村でレタスやって、2年目3年目が佐久市で有機ズッキーニとミニトマト、レタスとかやって、その佐久の時に具体的に有機農業の技術は学んだっていう感じです。それまでは全く？それまでは、ほとんどそうですね。あ〜、小学生の頃に、新潟の田んぼを手伝いに年に何回か行ったりはしてました。親戚の家のお手伝いとか？有志で「世田谷棚田クラブ」という集まりがあって、それで新潟の農家さんと繋がって、その団体としてお

手伝いに行って、無農薬の田んぼの田植えをしたりとかっていうのを小学校の時にやってて、それがすごい楽しくて。あとは父親が家庭菜園やってたりとか。そういうので、なんとなく親しみはありました。そうなんだ～。はい。

◇「ふたつき農園」の名前の由来は？

☆これは皆さんに聞かれるんですけど、私の名前が「朋子」って言って朋の字が月二つなんですよ。「朋」っていう字は、仲間とか友達っていう意味があるので好きな漢字なんです。それで「ふたつき農園」にしました（笑）。なるほど～。

◇朋子さんのお歳をお聞きしてもよろしいですか？

☆はい。27歳です。平成3年生まれです。

◇主に「ふたつき農園」で栽培している品目を教えてください。

☆はい、少量多品目っていう形でやってて、色んな野菜をちょっとずつ育ててます。その中でもメインというか、好きでやっているのはズッキーニとレタスで、ズッキーニはお客様の野菜セットに毎回入れられる位、年中通して採れるようにしています。6月～11月に野菜セットを販売しているので、その期間は入れられるようにしています。佐久でズッキーニとかレタスとか作ってたので、それがなんとなく好きでそのままやってます。畑は近くにあるんですか？畑はですね、ここからちょっと登って行ったところに、車で1～2分位のところに借りてます。「ゆきわり草」からまだ上に登っていく道があるんですけど、その登って行った先にあります。そうなんだ～、あの細い。そうです、そうです。軽トラで？そうです。この周りも昔はもっと広く畑があったと思うんですよ。それが耕作放棄されちゃって使えるところは限られているんですけど、結構あると思います。でも小さい畑がいっぱい点在している感じで、もっとまとまっていたらやりやすいんですけど。一番広いのが1反（10 a）で、あとはもう2セ（2 a）とか3セ（3 a）とか、ちょっと大きいところで5セ（5 a）位の畑が10枚位あるんですけど、そこを転々としながらやってます。ちょっと離れているんですけど。田んぼもあるんですね。はい、田んぼもやってるんですけど、今年全然良なくて。なんか水不足で、水がこなくなっちゃって。そういえばこの間、水路の工事やってるって聞きました。使える水路があるにはあるんですけど、それだけじゃウチの田んぼギリギリ過ぎて、ちょっと干ばつとかになるとすぐ水こなくなっちゃうんですよ。それがちょっとたたってしまっただけ。この間、棚田サミットやられたじゃないですか。役場の方に何回か来てるんだけど、その時に「今度、棚田サミットやるんだけど、道を走ってても棚田があまり見えないんですよ。」って話になって。そうなんですよ。小谷は。道沿いというより、入っていった所にあるんですよ。傾斜がきつくて大変ですよ。小谷の棚田の特徴で、皆で協力しないと出来ないんで、それがまた良いところでもあるし、難しいところでもあるんですよ。農業機械は共同で使っているんですか。そうですね。生産組合で主要な機械を全部持っていて、そこから借りていません。

◇ご出身はどこですか？

☆東京です。東京でも家庭菜園があったんですか。本当に小さい猫の額ほどの庭ですね。中学1年まで世田谷に住んでいて、中学2年から大学生まで調布だったんですけど、一応土のあるスペースがあって、そこで色々育てていました。東京で土のある生活は貴重ですね。もしかすると、それが土台のひとつになっているかもしれないですね。そうかもしれない。私の祖母がよく言うんですけど、曾祖母がすごいマメに家庭菜園をやる人だったらしくて、祖母がその話ばかりするんですよ。それを見て育てている父親も家庭菜園が好きだから、その影響は大きいかもしれないですね。小谷に移住する時はご両親はどんな感じでしたか？私が小谷に行き元気になっているのを見ているので、特に反対はなくて”良かったね”って言うてくれて。母親はこういう所が大好きだから結構すんなりと。ご両親は小谷に来られたりしますか？母は結構来ていて、父親はまだ1回も来てくれたことがないので、絶対来てって言うてます。母は、何ヶ月かおきに泊まりに来てくれてます。都会からこういう所に来るっていいよね。特急で来れるし、南小谷駅から歩こうと思えば15分位で来られるし。東京からはアクセスがいい場所だと思ってて、特に伊折は小谷の中でも、すごい来やすい場所なんですよ。

◇農業だけで生計を立てているんですか？

☆そうですね。いまのところは農業が主ですね。たまに頼まれた時だけ、カフェへバイトに行っています。冬もバイトに行ったりしてるんですけど。小谷って単発で仕事をしようと思えば結構あって、年間通しての仕事はあまりないんです。季節柄の仕事が結構あるので、私みたいな生活をしていると、それが有り難かったりしてます。繁忙期の土日だけお店を手伝ってとか、11月の萱刈だけ手伝ってとか、サルナシとヤマブドウの収穫手伝ってとか、季節ごとに色んなところから声がかかるので、自分のお小遣いになって、すごくいいです。それって大事なことですよ。ひとつだけじゃなくて、何でもやるよって言うのが小谷ではあってるのかなって思ってます。農家から冬場の仕事が困るって話は聞くんですけど雪中キャベツみたいに冬場に何か出来るのはいいことですよ。私も冬場は農業出来ないけど、組合の雪中キャベツの仕事がちゃんとあるので、冬も農業携われて有り難いです。

◇ご兄弟はいらっしゃいますか？

☆妹が一人います。遊びに来たりします？実は、今度の週末に来て、白馬のマルシェに私が出店する時に、私の野菜で作ったお菓子を一緒に売ってくれることになってます。マルシェに出店もしているんだ。今年の夏から白馬でオーガニックマーケットが始まって、近いから出店しやすいんです。本当は、もっと色々な所に売りに行ければいいんですけど、なかなかそういう場所がないので。白馬の辺りは若いお母さんもいらっやあって、しかも別荘地で富裕層の方もいらっやから絶対オーガニックは需要あるんですけど、白馬・小谷で有機農業を大きくやっている人は少ないですよ。そういうので繋がれると需要はあるんじゃないかな。佐久穂町でも野菜の宅配をされている方がいますよね。昨日、長野市の中条で有機で多品目栽培をしている人の圃場を見せてもらいました。ちょっと離れ

た場所には居るんですけど、小谷だと、有機栽培はまだメジャーじゃないんで、そういう人たちと繋がれたら嬉しいな。有機栽培って価格を上げないと収入に結びつかないところもあったりするんで、価格は高めなのかな。こだわりがあるし、相手もわかっていて購入するので上手く結びつけられればいいですね。佐久市の「ヨコハチファーム」で2年間研修していたんです。住み込みだったんですか？寮があって、アパート借りて一人暮らしするまでは寮に入っていました。有機農業って大変ですよ。まだわからないことだらけで、いっぱい勉強したいな。小谷に来て何年ですか？今度が3度目の冬だから、農業は2シーズン目です。小さいころの夢、なりたかった職業はなんですか？作家とか本を書く人になりたかったです。本を読んだりするのが好きなんですか？今でも児童文学好きなんですよ！そういうのが書ける人になりたかった。実は小谷村の広報に月に1回連載しているんです。(本当!!)それから、私が売っている野菜セットに「ふたつき新聞」っていうのを入れているんですけど、年配のお客さんに受けが良くって、文章書いて絵も入れてます。すごいじゃないですか。ただ野菜を送るだけじゃなくて、新聞を入れた方が自分の色を出せるから大事にしていこうと思っています。朋子さんの思いを届けられて、いいよね。お客さんからお店に貼っていい？って聞かれたことがあって、そういう形で使ってくれるなら、お客さんだけじゃなくて、人にも見せられるのをちゃんと作ろうと思って。手作り感があるのも有りかなって。個人でやる場合、発信力が大切だから。10年ぐらい経って読み返してみたら、おもしろい目で見れそうだなって(笑)。



伊折の集落って道が円みたいになってて、1周散歩するだけで絶対誰かに会うんですよ。この円で完結してるから、それが特殊で伊折らしい所なんです。他の集落は道が1本あって、その道沿いに家がある感じだと思うんですけど、伊折はそれが円だからすごいまとまるんですよ。20代の人はいますか？伊折にはいません。村には私と同年の協力隊の子がいたり、30代の人はいっぱいいます。

◇趣味はありますか？

☆趣味か～。冬の間はず～っと家にこもってアニメを見ています。こたつに入って、パソコン開いて引きこもってます。夏の反動で(笑)。そういう蓄える時間は大事だよ。逆に1年間農業できちゃったら、ちょっと飽きてるかもしれない。そっか～、充電の時間は大事だね。スキーとかスノボとかはやらない？やらないんですよ。せっかく小谷にいますけど。スキーブーツまでは買ったんだけど、そこから先は・・・。行こう！って思わない。一番好きな季節はいつ？一番、自分の中でやる気が高まっているのは春ですね。夏はひたすら忙しいんで。秋は燃え尽きるので、やっぱり春が好きかなあ。雪が溶けて、久しぶりに地面の土の色が見えるとすごいテンションが上がりますね。雪は結構積もるでしょ。そうですね～、結構積もりますね。放っておくと窓が埋まっちゃって、光が入らなくなっちゃうんです。冬はまず雪かきをしないといけない感じ。道は下の方まで村で除雪してく

れるの？はい、そうです。村の除雪機ですごいキレイに国道から伊折の集落までかいてくれるので。小谷の除雪はプロ中のプロなので、そこは心配していません。雪かきもちゃんとしてるから、生活できるっていうのもあるしね。おばあちゃん達から、歩いて道作ってた時代の話聞くんですけど、その時代にはちょっと私は住めないなあって思って。そういった環境を村の方でもやってくれるっていうのは地域の人のためでもあるし、都会の方から来られる人にとっても「そんなに不便じゃないんだな」って思わせるのがすごく大事だよ。そうですね。

◇小さい頃に思っていた田舎のイメージはどうでしたか。

☆イメージか～。新潟の田んぼには年に何回か行っていたので、新潟の田んぼの風景、古民家、あと、大勢でご飯を食べているイメージかな。ここに来る前の長野県のイメージはどうでしたか。山！アルプスですね。小谷村、伊折集落の魅力ってどんなところですか。魅力はですね、やっぱり人が温かいところですね。もちろん、色々あるんですけど、人の温かさと、昔ながらの農村風景がまだあるってところかな。こちらに移住するにあたって不安はなかったですか。ありました。移住前は、ちゃんと仕事があるのか、自分でちゃんと仕事ができるのか不安でした。お金のことは、そんなに心配してなくて、自分一人だけだったし何とかなるだろうと思っていました。あとは、学生の頃に来ていたので顔見知りだったけど、自分の居場所が作れるかが心配だった。今はその不安材料はない？無いです。今年、コメ獲れなかったんですね。私の田んぼに限ってです（あはは）。お日様がいっぱい照っていたんで、水をちゃんと張っていれば。組合の田んぼとかお爺ちゃんの田んぼとかはメチャメチャ出来が良かったです。私の田んぼは水が枯れちゃったのでダメでした。県内でも水が必要な時期に水がなくて出来が悪かったところもあったみたいですね。水が潤沢にあるってことは、本当に大事なことで、まさに命を繋ぐ水だよなと思って。

◇移住して良かったなっていうエピソードがあったら教えてください。

☆何だろうな、ふと、都会のストレスとは無縁の関係だなんて思えることがあって、それがすごい嬉しくて、都会にいる時は満員電車とかがすごい苦手で、人がいっぱいいるっただけでストレスを感じていたと思うんですけど。小谷だと、それがなくなって朝起きた時とか思うんですよ。こっちに来て本当にストレスが減りました、スゴい減りました。あとは、都会に住んでいる時だと実現もしなかったであろう、ちょっと憧れのことが現実になっていることかな。例えば、自分で農業して生活していることもそうなんですけど、今お手伝いしている「十三月」というオシャレな古民家カフェが中土集落にあって、そこは元協力隊員で移住して来たご夫婦が開いています。「おしゃれな古民家カフェで働いている自分」なんて、都会にいる頃は憧れはあったけど、絶対に実現出来ない働き方だったから、それが現実になっているんだなって。それは小谷に来なかったら無かったことだし。あとはね、結婚する相手が見つかったこともそうだし、農村の風景が身近にあることがすごく嬉しいです。ご主人になられる方は都会の方？東京から移住してきた人で、養鶏をやっていて、卵屋さんです。先ほど見たニワトリもそうですか？あのニワトリは、伊折のニワトリです。野菜のセットに卵を入れるとお客さんに喜んでもらえるし、ホビーさん

のジャージー牛乳も入れたりしています。野菜だけじゃなくて、小谷の美味しいものをみんな入れてセットにしてやりたいなって思っていて、それがちょっとずつ広がっているのが嬉しいです。虫は平気ですか？まあまあ平気ですけど、カメムシはやっぱり嫌だな。結構出ます？出ます。ストレス解消は？アニメ観ますね。お料理したり、お菓子作ったりとかもします。お料理は大好きですか？う～ん忙しい時は全然しないですけど、割と好きですね。マメにするタイプではないですけど、たまにお菓子とかを凝って作ったりします。あと、伊折の爺ちゃん婆ちゃんたちとお茶をする時間が楽しいです。結構いい気分転換になります。家に呼ばれることもあるし、皆で一緒に作業した後にお茶してから解散っていうのもあるし。学生の頃、小谷に来て一番驚いたのが、お茶の時間がある！ってこと。10時になったら「おい、お茶だぞ」って呼んでくれて。それが本当に驚きましたね。お茶する文化があるってことと、お茶の時間にお爺ちゃん、お婆ちゃんたちが漬物とかを持ち寄って来ることにスゴク感動して、あ～マジかいいいなって。都会の人にとっては憧れですね。すごく楽しかった。ゆったり時間が流れてるんですね。お茶の時間っていいですね、時間忘れやすいね。そう、ほんとそんな感じです。集落のお年寄りも、いつも家にいらっしゃるんですか？大抵いますね。畑に居るか、家に居るか、病院に行ってるか、かな。よく作る料理とか、おすすめのレシピってありますか？ホットケーキかな。この間まで、栗がすごい拾えたのでホットケーキに栗入れてみたり、栗のケーキ作ったりしました。栗の皮を簡単にむける方法をめっちゃ研究しました。この辺のお爺ちゃんお婆ちゃんたちは季節によって採れるもので漬物作ったり、これが採れたら作るっていう郷土料理のレシピがあるんです。私そういうのが好きで、学生の頃それを研究していたんです（そうなんだ）。畑で何が獲れて、その採れたもので、どういう料理を作るかっていうのを研究していたので。食生活とかにも興味があって、お爺ちゃんお婆ちゃんたちがいつも作っているものを作れるようになりたいな、伝えていけたらいいなって思ってます。本当は、お客さんに、そういうレシピを作って送りたいんですけど、まだそこまで出来ていなくて。いずれは、小谷レシピを作って野菜セットにして送りたいと思っています。本にして後々まで残していければいいですね。そう思います。季節を感じられる料理がいっぱいあるから、例えば、採れた春菊を茹でてマヨネーズをかけて食べただけでもめちゃめちゃおいしいから、それも残したいし、お婆ちゃんたちは、春菊採れたら茹でてお浸しにするんだよっていうのも書きとめておきたいし。皆さん元気なうちに聞いて残しておきたいなって思っています。朋子さんみたいな人が居てくれるっていいですよ。爺ちゃん婆ちゃんたちも張り合いになるよね。

◇農作業するのに、こういうのがあればいいな～っていうものはありますか？

☆畑にしている所が水田だった所なので、20cmも掘れば石の礫の層が出てきちゃって、あまり深く起こせないののでどうにか出来ないかなって。畑地化の補助事業もあるけど、規模の要件などがあるので、他にもまとまった農地があれば役場に相談してみてもいいかもしれないですね。ずっと水が溜まっている場所があったりして、この辺は土も粘土だから畑としては扱い難しい場所かなって思うことは正直あります。

◇将来に不安はありますか？

☆今は、野菜セット一本ですけど、将来的に、野菜セット一本でやっていけるのかっていうのもあるし、気候の変動がすごくあるので、ちゃんと野菜が育つかわからないし、猿が出始めたら農業どころではなくなっちゃうし、このまま今まで通り野菜を作り続けられるのかがちょっと不安です。鳥獣被害は結構あるんですか？電気柵を張らないと、たぶんほとんどやられちゃうんじゃないかな。イノシシ、カモシカ、キツネ。今年はキュウリをカラスにすごい食べられてしまって。鳥獣被害のことを一番に考えなくっちゃ野菜作るところではなくなっちゃうんで。伊折でヤギを飼い始めたのは猿対策の意味があつて。匂いがあるので獣を除けてくれるんじゃないかと期待を込めて飼っています。一定の効果はありそうですね。他の集落のお爺さんからヤギ飼っている時は、なぜか、クマとかイノシシが来なかったんだよなって話を聞きました。昔、クマもイノシシも見なかったのは人間の生活範囲が広くて、獣の区域と緩衝帯があつたからっていうじゃないですか。飼っている動物に緩衝区域を作ってもらうとか、ちゃんと考えないと難しいんじゃないかな。ヤギの効果はこれから証明していかなきゃいけないかな。本当に効果があればいいですね。今、野菜セット一本でやっているってことだけど、他に新しくやりたいなって思うことはありますか？若い人を受け入れたいかな。私も農業をやりたいから研修をさせてもらったので、そういうのをやってみたいと思っていて、別に農業じゃなくてもいいし、自分が何をしたらいいか迷っているような学生がいたら、ここで一緒に働いて、自分の事を考えるきっかけになればいいなと思っていて、いずれは、この家を寮じゃないですけど住み込みで農業をするように出来ればいいなって思っています。新たな人生の一步を踏み出すことに繋がるような何かが出来たらいいなって思っています。やっぱりこういう所は、人が生きる原点に近いものがあるから、迷っている人の力になればいいな。感動します。若いのにしっかりされてる。私もそういう方に助けていただいたから。佐久の望月に石川さんっていう方がいらっしゃるんですけど、学生のボラバイトみたいな感じで社会人を集めて、家に住み込みで共同生活しながら仕事してっていうのをやられている方で、すごい刺激をいただいたし、自分が迷っているときにすごい相談に乗っていただきました。私もここに来るまで農業で起業するなんて夢のまた夢でしかなかったので、どんだけしんどいんだって思っていたし、まさか、自分が今それをちゃんとやっていて、やりたいことをやっているのはすごいことだと思っていて、だから不可能じゃないんだよってことを教えてあげたい。すごいですね～。将来は人に還元したい。

◇将来の夢は、今おっしゃった事ですか。

☆そうですね。色んな人と関わりながら、ここで過ごして行きたいと思います。東京農大の先生が借りている古民家に学生も沢山来られるようですが、交流はあるんですか？あります。農大の田んぼの水管理をしています。農作業を手伝ってもらったり、伊折農業生産組合の仕事は農大の学生さんがいるから成り立っているようなものなので、人手がいる作業は農大に頼りっぱなしで結構助かってます。学生と交流出来る機会があるのはいいですよ。本当にそうですね。移住してくれる人が一人でもいればいいですね。今、農大出身の小谷移住者は私を含めて二人なんですけれど、三人目が誕生するかしらないか・・・。増やして行きたいですね、先輩がいればハードルが下がるんじゃないかな。そう思います。

この間は学生が実習で来て、「ここに実際住むってどんな感じですか」って私にも色々質問してくれる子がいて有り難かったし、地域のことに関心を持っている学生が来てくれるのが嬉しかったです。小谷に住まなくても、他の過疎地域に住んで活躍してくれればいいなって思います。橋渡しの役割みたいです。そうですね、藤原真弓さんが私の橋渡しになってくれて、お爺ちゃんお婆ちゃんに相談出来ないことを真弓さんが全部相談にのってくれたから、ここに住むことが出来たし、田舎のことも都会のこともわかる人が絶対必要だから、私も真弓さんみたいな人になりたいなって思います。農業だけじゃなくて、地域のこともやっていきたいのが私の夢かな。朋子さんのような人が居てくれれば集落の人も頼もしいですよ。よそ者扱いしないで、普通に接してくれて。伊折にはよそ者でも受け入れてくれる風潮があるんで、それが一番大事かな。なかなかね農村の中に入っていきのって大変だと思うんですよ。はい。生半可な覚悟じゃ入っていけないなって思うし。話を聞いてるとすごくいい環境だし、それだけじゃなくて学生さんとの付き合いもあったり、さっきの古民家カフェじゃないですけど、その辺がうまく重なり合っているんだなあと感じますよね。1ヶ所に依存しないで色々な所とつながるのは大事だし、色々な所に助けを求められるっていうのはすごい大事だと思います。感動しちゃう。若いのにしっかりした考えを持っててすごいね。いえいえ、熱意しかないの。そんなことないよ。でも、気負いすぎずにね。ところで、野菜セットは何軒位に送ってるの？ひと月に30～40軒位で、期間全部通すと200軒いくかいかないかっていう計算ですね。でも、3倍に増やしたいんですよ。あと3～4年で3倍に。土地とかはありますか？たぶんいくらでも借りられる畑はあります。なので自分がいかに効率よく作業をやるかっていうのと、植えた物がちゃんと作物になるかっていう、そこだと思ってます。やっぱね、植えても枯れたりとか虫に食われたりとかしてダメになっちゃうやつがいっぱいあるんですよ。有機だと余計ね。そうなんです。それをちゃんとして、植えた分だけ採れるっていう風になればいい気はするんですけど。今のままじゃ到底ムリなんで、もっと努力しないと。

東京農大の頃、伊折に滞在していた時に食べていた野菜などで朋子さんの体が元気になったというエピソードを聞いて、地元の旬のもの、採れたての新鮮な食べ物って大事なんだなあと改めて気づかされました。採れたての野菜とともに送るといって、朋子さん直筆の「ふたつき新聞」もお客様には大好評とのこと。達筆な字と可愛い絵が書かれた新聞は、いただいた方にとってはとても心に残る嬉しい贈り物だと思います。

これからも若い力で頑張ってくださいね。ありがとうございました。



マッキーがおじゃまします！
関東農政局長野県拠点